

2012. 1. 13

2012年新年賀詞交歓会／挨拶

JABM 会長 芳賀 美次

会員の皆様、改めまして 明けましておめでとうございます。

昨年の大震災の後の新年でありますことから、「明けましておめでとうございます」という言葉を使うことには、若干躊躇したいところもありますが、敢えて大きな声でご挨拶申し上げて、震災復興に元気を届けたいという気持ちであります。

この東日本大震災に対しましては、今年の総会でご承認をいただきましたように、当協会から日本赤十字社を通して、義援金として些少ではありますが、20万円寄付させていただきましたので、ご報告申し上げます。

さて先程は、「新春公開セミナー」でご講演していただきましたが、講師の皆様におかれましては、大変有益なお話、ありがとうございました。

それでは恒例になりましたが、年頭に当たりまして、一言協会の活動状況と当協会が集計致しました、2011年度のボンド磁石の生産推定を簡単にご報告致します。

まず協会の活動状況であります。活動の基本は、2011年度も「会員の皆様にお役に立つ協会」を目指して活動して参りました。

最初に技術委員会でありましたが、昨年も技術委員の皆様大変頑張ってください、5月と9月には技術例会を行い、12月にはシンポジウムを開催しました。昨年は、当協会が、創立30周年を迎えましたので、記念行事を実施しました。12月9日には、14名の講師による「2011BM30周年記念シンポジウム」を開催し、また、「日本の磁性産業を支える会社紹介」の冊子の刊行、さらに「ボンド磁石を応用した記念品」の贈呈、及び記念懇親会を行いました。冊子には、27社に掲載していただきました。また、記念品は、(株)マグエックスの阿部社長殿よりご寄付いただいたものであります。今回の30周年記念行事は、主催者側としましては、お陰さまで成功裏に終わることが出来たと総括しております。伊田技術委員長、藤平準備委員長、ご苦労様でした。

次に企画委員会でありましたが、昨年新春公開セミナーは、「インドの国情と産業動向」及び「HALT/HASSによる電子機器のストレステスト」について講演していただきました。また、12月8日には「世界ボンド磁石生産推定討論会」を主催し、出荷統計のデータ収集を行いました。

次に教育活動の「寺子屋BM塾」でありましたが、昨年も浜野塾長の企画と技術委員の協力で行われました。塾を始めてから5年目に入りますが、この間延べ1300名の塾生に勉強していただきました。会場は、(株)東陽テクニカより無償で貸与していただいております。

次にBM NEWSは、2回／年発行しておりますが、昨年からカラー印刷にしました。大森機関誌編集委員長の頑張りで、コストもあまり高くないようにいろいろと工夫していただきました。グラフや表、写真などがはっきり分かるようになり、BM NEWSの質が大きく向上しました。

以上が事業活動の概略であります。

続いて、2011年のボンド磁石の生産推定を簡単にご報告します。この集計は、企画委員会が行い、吉田企画委員長が中心になってまとめていただいたものです。

まずここ数年のボンド磁石の生産を見てみますと、2009年はリーマンショックで2008年に比較して大幅に減少しました。そして2010年は、おおむね2008年のレベルに戻ったと見られます。2011年は、前半は2010年のレベルで順調に推移したと見られますが、後半は、レアアースの暴騰・震災・タイの大洪水・EU金融不安などの影響を強く受け、大きく変動したと推定します。

それでは2011年の集計結果をご報告します。日本国内に於ける生産は、重量で昨年の10200トンに対して、9650トンで前年比約95%と推定されます。また、中国やタイなどで生産されている、日系海外企業の希土類ボンド磁石は、重量で2010年より15%強の減少と推定されます。

以上は重量であります。2011年の生産金額の推定は、希土類磁石原料の価格変動が激しく（一昨年と比較して、2～3倍に高騰）、現時点では金額の実態が掴めきれないため、今回は重量のみの報告にさせていただきます。なお、今回の集計は、中間報告であり、協会の最終報告は、4月のBM NEWSで発表します。

国内に於けるボンド磁石の分野別の生産重量とその状況は、以下のようになります。

1. フレキシブルボンド磁石

国内の生産量は、2010年と同等で、2600トン（前年比100%）が見込まれます。海外では、汎用グレードの生産量は中国メーカーが増加していると考えられます。一方国内メーカーでは、高性能化が進み、特に小型モータ用は、耐熱性と磁力が大きく向上しております。技術的には海外品を大きく引き離しておりますので、今後の伸びに期待が持てます。

2. リジッドボンド磁石

2010年の7000トンに対して、2011年は6500トン（前年比93%）と推定されます。リジッドボンド磁石の最大の用途は、レーザービームプリンターや複写機複合機のマグネットロールなどOA機器関連であります。これらの用途は、リジッドボンド磁石の70%以上を占めると推定されますが、2011年後半にタイの大洪水、EU不安、正規品以外の普及などの影響を受け、年間平均して約7%減少したと見られます。また、OA以外の小型モータなどは、昨年と同レベルと見られます。

3. 希土類ボンド磁石

2010年の国内生産量は600トンでありましたが、2011年は550トン（92%）と推定されます。希土類ボンド磁石は、2009年後半からネオジム磁石粉末であるMQ-Pが大幅に増加し、2010年は2009年比で50%増となりました。それに対して、2011年の前半は、2010年の水準で推移したと見られますが、2011年後半は、レアアース原料の高騰に伴い、成形材料が高騰し、一斉に生産調整に入りました。また、タイの大洪水の影響も加わりさらに減少したと見られます。以上の要因から、日系メーカーの生産は、海外では2010年比重量で15%減と見られますが、国内生産では、Sm系やNd系異方性ボンド磁石の増加もあり、2010年比で約10%減と見られます。

以上でボンド磁石の生産推定値の報告を終わります。

最後になりますが、2012年度のボンド磁石の技術的進展に期待を述べて終わりたいと思います。

一つは、希土類異方性ボンド磁石の更なる発展を期待したいと思います。フェライト異方性ボンド磁石は、磁場押出成形も磁場射出成形も日本が圧倒的強さを持っておりませんが、希土類も強さを発揮出来る分野であると思われますので、進展することを期待します。既に愛知製鋼（株）のDyフリーNd-Fe-B系異方性ボンド磁石や日亜化学（株）のSmFeN系異方性ボンド磁石は開発が進み、量産化にスタンバイしている状況だと思います。今年は、さらに実用化を大きく広げて欲しいと期待しております。

二つ目は、着々と裾野を広げる電気自動車に於けるボンド磁石の位置付けの調査を推進したいと思います。ガソリン自動車は、モータ用磁石の耐熱性が180℃を要求される場合もありますが、電気自動車はもっと低くても良いのではないかと思います。もし、130℃位でも良ければ、耐熱性だけを考えますとボンド磁石の搭載機会が大きく広がると思います。協会としても情報を集めたいと思います。

以上、大変長くなりましたが、これで終わります。本年もよろしくご静聴ありがとうございました。